

2004 さくら



最上川堤防のさくら、4月18日撮影したもの、まだ満開には2~3日の見ごろ、快晴の中に映える。



伊佐沢の久保のさくら、4月21日撮影、ここ2日間雨風にさらされたが、午前6時ころにはアマチュアカメラマンが多数来ていた。



《写真上》山形市の馬見ヶ崎のさくら、4月15日撮影、前日からライトアップも始まる。川沿いに延々とさくらの木が並ぶ。

《写真左》白兔地区しだれさくら、この日4月21日は、見ごろを過ぎてしまった感じだ。盛りには見事な花がみられる。《写真右》長井小学校のしだれさくら。





白鷹町釜の越さくら、樹齡
800年といわれるエドヒガンザ
クラ、高さ20メートル、太さ6
メートル枝張り27×20m、



白鷹町山口の奨学さくら、明
治44年植樹、88年の樹
齡のとき山口奨学さくらと命
名。もともとこの地は山口村
小学校の跡地。



白鷹町浅立地区内にある、
殿入りさくら、ぼんぼりが立ち
並び、次々に「置賜さくら回
廊」のパンフを持った見物客
が訪れる。



十二のさくら、通称「種まきさくら」
とも呼ばれる。エドヒガン桜で、樹
齡400年ほどの老木の古株が残
り、現在はその3代目が大木とな
っている。「十二」は、十二薬師堂
の意の地名という。



長井高校校舎南グラウンドのさくら、4月18日に撮影したもの。土手の下までさくらの木が垂れ下がりとてもきれいな光景だった。



●白鷹町西高玉・金田聖夫氏宅

御衣黄

バラ科サクラ属のサトザクラで、学名は【*Cerasus lannesiana* Wils.cv.Gioiko】。昔の貴人が好んで着た（着用が庶民には許されていなかったのではなかっただろうか?）、ウグイス色の気品のある衣の色に似ていることから御衣黄と命名された。ソメイヨシノなどが散ったあと、晩春に咲く。桜は一般に接木でクローン増殖されるため、突然変異で生まれただろう品種。江戸時代初期にサトザクラとヤマトザクラを交配されたオオシマザクラの一種で、京都の仁和寺で栽培されたのが始まりという。花弁数が10~15枚あり、この花弁の多さは、葉から変化のため。黄緑色でなく、黄色い花の場合は多くは、根茎を使って染めた色に似ていることから「鬱金（ウコン=カレーに入っているターメリック）」である。



鬱金(ウコン)

Prunus lannesiana Wils. cv. *Grandiflora*

花は大輪、八重咲きで黄緑色。開花期は4月下旬。

花色が黄緑色と珍しい桜で、ウコンの根茎を使って染めた色に似ていることからこの名がつけられたといわれています。その花色から欧米でもよく栽培されています。

南陽市漆山小学校のウコンは特別きれいで、樹齢60年という。



●白鷹町西高玉・金田聖夫氏宅にもウコンさくらがあり、花びらにも若木の感じがある。



南陽市で撮影した「八重さくら」で、大きい花びらと鮮やかな濃いピンク。なんとも美しい花びらだ。